

【企業動向調査（製造業）概況】

令和2年4月～6月期の企業動向調査（市内製造業102社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は▲53.1ポイントとなりました。

前期調査結果（令和2年1月～3月期：▲22.9ポイント）と比較して30.2ポイント悪化しました。自社の景況感については、「悪化している」とした企業が55.6%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」32.1%、「変わらない」8.6%、「好転している」3.7%、「今はないが、今後好転が見込まれる」0.0%となっています。

実際にテレワークを行ってみてどのような影響がありますかについては、「経理部門で導入し実施したが、子育てとの両立は図れそうではあるが、出来る仕事に限られているので緊急事態時のみの対応となりそう。大変便利。影響はほぼなし。セキュリティ対策等」の意見がありました。

経営上の問題は、「先が見えないので不安。コロナ問題も心配ですが、昨今の豪雨災害による、農業被害が心配。仕事が少なく勤労意欲の変化。コロナ禍の影響は今あまり感じられないが、今後どうなるか全く不透明で心配される。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「食品」、「金属」、「一般機械」、「電気機械」、「木材家具」、「その他業種」すべてマイナスポイントとなりました。

業種別の業況判断前期比D I

食品	▲60.0	（前期比：マイナス	10.0）
金属	▲47.4	（前期比：マイナス	17.4）
一般機械	▲78.6	（前期比：マイナス	12.0）
電気機械	▲33.3	（前期比：マイナス	53.3）
木材家具	▲66.7	（前期比：マイナス	66.7）
その他業種	▲47.1	（前期比：マイナス	41.2）

2. 次期予想D I（令和2年7月～9月）

次期予想の平均は▲49.4ポイントで、今期調査結果の平均(▲53.1)より、3.7ポイント上回る予想となりました。

業種別の次期予想D I

食品	▲50.0	（今期比：プラス	10.0）
金属	▲42.1	（今期比：プラス	5.3）
一般機械	▲64.3	（今期比：プラス	14.3）
電気機械	▲46.6	（今期比：マイナス	13.3）
木材家具	▲33.3	（今期比：プラス	33.4）
その他業種	▲52.9	（今期比：マイナス	5.8）

3. 経営上の主な問題点

「受注の減少」が69.1%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が45.7%、「原材料・仕入品単価の上昇」が17.3%、「納期の短縮」が16.0%、「労働力不足（量的なもの）」と「同業他社との競争激化」が13.6%、「技術力の不足」が12.3%、「人員過剰」と「製品販売価格の低下」が11.1%、「金融難」が6.2%、「為替相場の変動」が4.9%、「取引先の海外シフト化」が2.5%となっております。

企業動向調査

【令和2年4月～6月期〈2期〉】

【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は令和2年4月～6月期〈2期〉の業況について調査した。

【調査実施要領】

実施時期 令和2年7月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 102社

回答企業数 81社（回答率 79%）

【調査結果】

自社業況判断（D I＝好転－悪化）

前期比：「好転」8.6%（前回18.1%）、「悪化」61.7%（前回41.0%）という割合でD Iは▲53.1となり、30.2ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」11.1%（前回18.1%）、「悪化」64.2%（前回47.0%）という割合でD Iは▲53.1となり、24.2ポイント悪化した。

次期予想：「好転」3.7%、「悪化」53.1%という割合でD Iは▲49.4（前回▲63.4）となり、前期より好転を予想している。

受注引合（D I＝増加－減少）

前期比：「増加」8.8%（前回15.7%）、「減少」61.3%（前回49.4%）という割合でD Iは▲52.5となり、18.8ポイント減少した。

前年同期比：「増加」13.6%（前回20.7%）、「減少」63.0%（前回52.4%）という割合でD Iは▲49.4となり、17.7ポイント減少した。

次期予想：「増加」3.7%、「減少」53.1%という割合でD Iは▲49.4（前回▲66.6）となり、前期より増加を予想している。

生産量（D I＝増加－減少）

前期比：「増加」8.8%（前回17.3%）、「減少」61.3%（前回42.0%）という割合でD Iは▲52.5となり、27.8ポイント減少した。

前年同期比：「増加」10.0%（前回16.0%）、「減少」62.5%（前回49.4%）という割合でD Iは▲52.5となり、19.1ポイント減少した。

次期予想：「増加」5.0%、「減少」53.8%という割合でD Iは▲48.8（前回▲65.0）となり、前期より増加を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前期比：「低下」11.4% (前回11.1%)、「上昇」10.1% (前回9.9%) という割合でD Iは1.3となり、0.1ポイント低下した。

前年同期比：「低下」10.1% (前回16.0%)、「上昇」22.8% (前回23.5%) という割合でD Iは▲12.7となり、5.2ポイント上昇した。

次期予想：「低下」7.6%、「上昇」16.5%という割合でD Iは▲8.9 (前回▲10.0)となり、前期より原材料・仕入単価の若干の低下を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」1.3% (前回2.4%)、「低下」3.8% (前回6.0%) という割合でD Iは▲2.5となり、1.1ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」3.8% (前回7.2%)、「低下」5.0% (前回9.6%) という割合でD Iは▲1.2となり、1.2ポイント上昇した。

次期予想：「上昇」1.3%、「低下」8.8%という割合でD Iは▲7.5 (前回▲12.2)となり、前期より若干の製品販売価格の上昇を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前期比：「好転」3.7% (前回3.6%)、「悪化」30.9% (前回24.1%) という割合でD Iは▲27.2となり、6.7ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」6.2% (前回7.2%)、「悪化」39.5% (前回30.1%) という割合でD Iは▲33.3となり、10.4ポイント悪化した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」37.0%という割合でD Iは▲37.0 (前回▲45.1)となり、前期より資金繰りの好転を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」8.9% (前回10.8%)、「減少」48.1% (前回38.6%) という割合でD Iは▲39.2となり、11.4ポイント減少した。

前年同期比：「増加」10.0% (前回9.6%)、「減少」55.0% (前回43.4%) という割合でD Iは▲45.0となり、11.2ポイント減少した。

次期予想：「増加」7.5%、「減少」43.8%という割合でD Iは▲36.3 (前回▲54.9)となり、前期より労働時間の増加を予想している。

収益率 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」6.3% (前回7.2%)、「低下」57.5% (前回37.3%) という割合でD Iは▲51.2となり、21.1ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」7.5% (前回9.6%)、「低下」57.5% (前回48.2%) という割合でD Iは▲50.0となり、11.4ポイント低下した。

次期予想：「上昇」2.5%、「低下」46.3%という割合でD Iは▲43.8 (前回▲58.5)となり、前期より収益率の上昇を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

1位	受注の減少	(→ 69.1%)
2位	人材不足（技術者等質的なもの）	(→ 45.7%)
3位	原材料・仕入品単価の上昇	(→ 17.3%)
4位	納期の短縮	(↑ 16.0%)
5位	労働力不足（量的なもの）	(↓ 13.6%)
5位	同業他社との競争激化	(→ 13.6%)
7位	技術力の不足	(→ 12.3%)
8位	人員過剰	(↓ 11.1%)
8位	製品販売価格の低下	(↓ 11.1%)
10位	金融難	(↓ 6.2%)
11位	為替相場の変動	(↓ 4.9%)
12位	取引先の海外シフト化	(↓ 2.5%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食 品

前 期 比：「**好転**」 10.0%（前回 10.0%）、「**悪化**」 70.0%（前回 60.0%）という割合で
D Iは▲ 60.0 となり、10.0 ポイント悪化した。

前年同期比：「**好転**」 10.0%（前回 20.0%）、「**悪化**」 80.0%（前回 40.0%）という割合で
D Iは▲ 70.0 となり、50.0 ポイント悪化した。

次 期 予 想：「**好転**」 10.0%、「**悪化**」 60.0%という割合でD Iは▲ 50.0(前回▲ 50.0)と
なり、前回と変わらないと予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前 期 比：「**好転**」 10.5%（前回 10.0%）、「**悪化**」 57.9%（前回 40.0%）という割合で
D Iは▲ 47.4 となり 17.4 ポイント悪化した。

前年同期比：「**好転**」 10.5%（前回 10.0%）、「**悪化**」 63.2%（前回 45.0%）という割合で
D Iは▲ 52.7 となり、17.7 ポイント悪化した。

次 期 予 想：「**好転**」 0.0%、「**悪化**」 42.1%という割合でD Iは▲ 42.1(前回▲ 84.2)と
なり、前期より大幅な好転を予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前 期 比：「**好転**」 0.0%（前回 6.7%）、「**悪化**」 78.6%（前回 73.3%）という割合で
D Iは▲ 78.6 となり、12.0 ポイント悪化した。

前年同期比：「**好転**」 0.0%（前回 0.0%）、「**悪化**」 92.9%（前回 86.7%）という割合で
D Iは▲ 92.9 となり 6.2 ポイント悪化した。

次 期 予 想：「**好転**」 0.0%、「**悪化**」 64.3%という割合でD Iは▲ 64.3(前回▲ 86.7)と
なり、前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前期比：「好転」26.7%（前回33.3%）、「悪化」60.0%（前回13.3%）という割合でDIは▲33.3となり、53.3ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」26.7%（前回26.7%）、「悪化」60.0%（前回33.3%）という割合でDIは▲33.3となり、26.7ポイント悪化した。

次期予想：「好転」6.7%、「悪化」53.3%という割合でDIは▲46.6（前回▲26.7）となり、前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前期比：「好転」0.0%（前回33.3%）、「悪化」66.7%（前回33.3%）という割合でDIは▲66.7となり、66.7ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」16.7%（前回33.3%）、「悪化」50.0%（前回16.7%）という割合でDIは▲33.3となり、49.9ポイント悪化した。

次期予想：「好転」16.7%、「悪化」50.0%という割合でDIは▲33.3（前回▲83.3）となり、前期より大幅な好転を予想している。

Q10 (1) 日銀松本支店が7月1日に発表した、短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断(DI)は、マイナス47と33ポイント悪化し、下落幅は記録が残る1974年以降最大となりました。コロナ禍の自社の業況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」3.7%、「今はないが、今後好転が見込まれる」0.0%、「変わらない」8.6%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」32.1%、「悪化している」55.6%

(2) (1)で「好転している」、または「悪化している」と答えた方にお伺いします。具体的な影響についてご記入ください。

A 「同業者に比べれば売上は維持している方だが、前年比では大きく落としている。特に長野県内のお土産需要、飲食店需要、新商品が伸びているのが救い。」「いわゆる「お土産」ものが全く売れずに困惑している。」「先端設備系の需要が増加傾向である。」「製造業に関しては去年の台風が不景気の種となり、徐々にコロナの影響が出てきて今年の5月GW明けから更に業績が悪化している。」「仕事量が不足。先々の引き合いが不安定。コロナで海外の仕事ができない。

メンテナンス、装置の出荷、設置など。」「取引先、仕入先の金曜の休業実施が増えている。受注の引き合いが減ってきている。」「自動車向けの電子部品の受注が、国内、海外ともに落ち込んでいる。」「イベントはほぼ中止となっている。」「営業活動が難しい。」「受注量の減少。」「コロナウイルスの影響で、国内海外とも設備投資が激減している。」「絶対量の低下。他社値下げによる影響。」「客先の生産停止・調整により、一斉休業を実施し、生産量減少。海外受注減少による輸出減少。売上高が大幅に減少しているが、雇用維持のため負担する人件費、その他固定費も大きく、収益率も悪化している。」「受注の減少により、売上高が減少。減産により臨時休業を実施。雇用維持を目的に雇用調整助成金を申請。」「先が見通せない状況で判断はできません。」「コロナの影響が出てきている。その影響で、受注が減ったり先延ばしになっている。」「外食の低迷。テレワーク。」「お客様の方で週休3～4日になってしまい、売上減少しています。」「除菌、殺菌関係で一時的に売り上げは伸びたが、今後は減少する見通し。」「客先の工場立ち上げに遅れが生じたことで、見込んでいた物量が確保できない。」「電子部品メーカー（特に車載）については、一斉に生産をストップし。受注が減少しました。」「プレス加工従来品の生産量が落ちている。自動車（車載部品）関連の試作案件も落ち込んでいる。金型製作については新規案件がほとんどない状態。」「仕事量の減少により、従業員を休業させている。」「5月の引き合いが圧倒的に少なく、案件が入ってこない。繋りにくい環境となってきた。予算削減の声も多くなってきた。」「半導体の受注が減っています。」等。

Q11 (1)テレワークを導入しましたか。

A 「はい」18.5%、「いいえ」80.2%

(2) (1)で「はい」と答えた方にお伺いします。実際にテレワークを行ってみてどのような影響がありますか。

A 「経理部門で導入し実施したが、子育てとの両立が図れそうではあるが出来る仕事に限られているので緊急事態時のみの対応となりそう。」「緊急事態宣言期間中、東京、大阪の営業所でテレワークを行ったが業務上の大きな支障はなかった。一方で同僚の顔が見えず、会話もない中での日々の不安や寂しさを感じる」といった声があり、途中から毎朝、毎夕 Web による全員ミーティングを実施し、コミュニケーションを取るようにした。」「一部の部署に於いてテレワークを実施。個人のスキルの差が大きくなる。同じ仕事量がこなせれば有効な手段となり得る。」「小規模なので、大きな影響はなし。」「グループミーティングが減り、単独の業務処理に偏重。暫定導入とし、現在は実施していない。」「簡単な打ち合わせは良いが、声

が聞き取りづらかったり、機器の不調等があったりして、あまり便利ではないと感じる。(個人的に)、「導入期間が短いので判断できない。従業員は興味を持っている。」、「設計業務に関してはテレワークを導入しても影響はなく、支障は感じられなかった。」、「セキュリティ対策」、「大変便利。」、「通信スピードの鈍化が影響する場合がある。」、「感染拡大防止につながった。」、「コロナ危機より以前から導入しているので影響はないが、世間にその存在を知ってもらう機会になりやすくなった。」等。

Q12 具体的な問題について

- A 「以前のような仕事量に戻ることは当面難しいと思われる。少ない仕事量でどうやって利益を確保し、雇用を守っていくかが課題。」、「先が見えないので不安です。」、「コロナ問題も心配ですが、昨今の豪雨災害による、農業被害が心配。」、「コロナの影響は長引くと考えて行動の指針の変更を考えていかなければならない。」、「新型コロナとどう共存していくか？必要以上の経費がかさむ。安全対策に限界がないか？このままでよいか未知数。」、「名古屋圏の同業者が仕事欲しさに長野県内まで営業に来ているとのこと。それだけ名古屋圏内の自動車産業が悪化していると思われるが、荒らさないでほしい。」、「コロナ禍の中で採用をどの程度進めていいのか悩みどころです。」、「何年もかけて値上げしてきたが、ここにきて値下がり、固定費負担が大きい。」、「顧客の要求する技術に対応できない内容も増えてきており、技術力の強化を対応していかないと今後益々厳しくなることが予想される。」、「技術者の育成。」、「感染症のリスク、自然災害による稼働停止。BCP 関連にかかる設備の維持管理費用の増加。」、「従来の事業継承（後継者づくり）と事業展望。」、「人手不足を補う為の IT 化や AI 化に変革していく事を考慮して経営していくにあたり、指針が決まらない。」、「コロナの影響はまだまだ未知の事象が多い。大丈夫なのか不安。」、「最低賃金の大幅な上昇。合理化がついていけない。」、「コロナの収束が見えない事で、産業の停滞がどこまで続くのか？次の見通しが立てづらい状況が続いている。」、「関東方面の仕事がストップ又は延期になった。」等。

